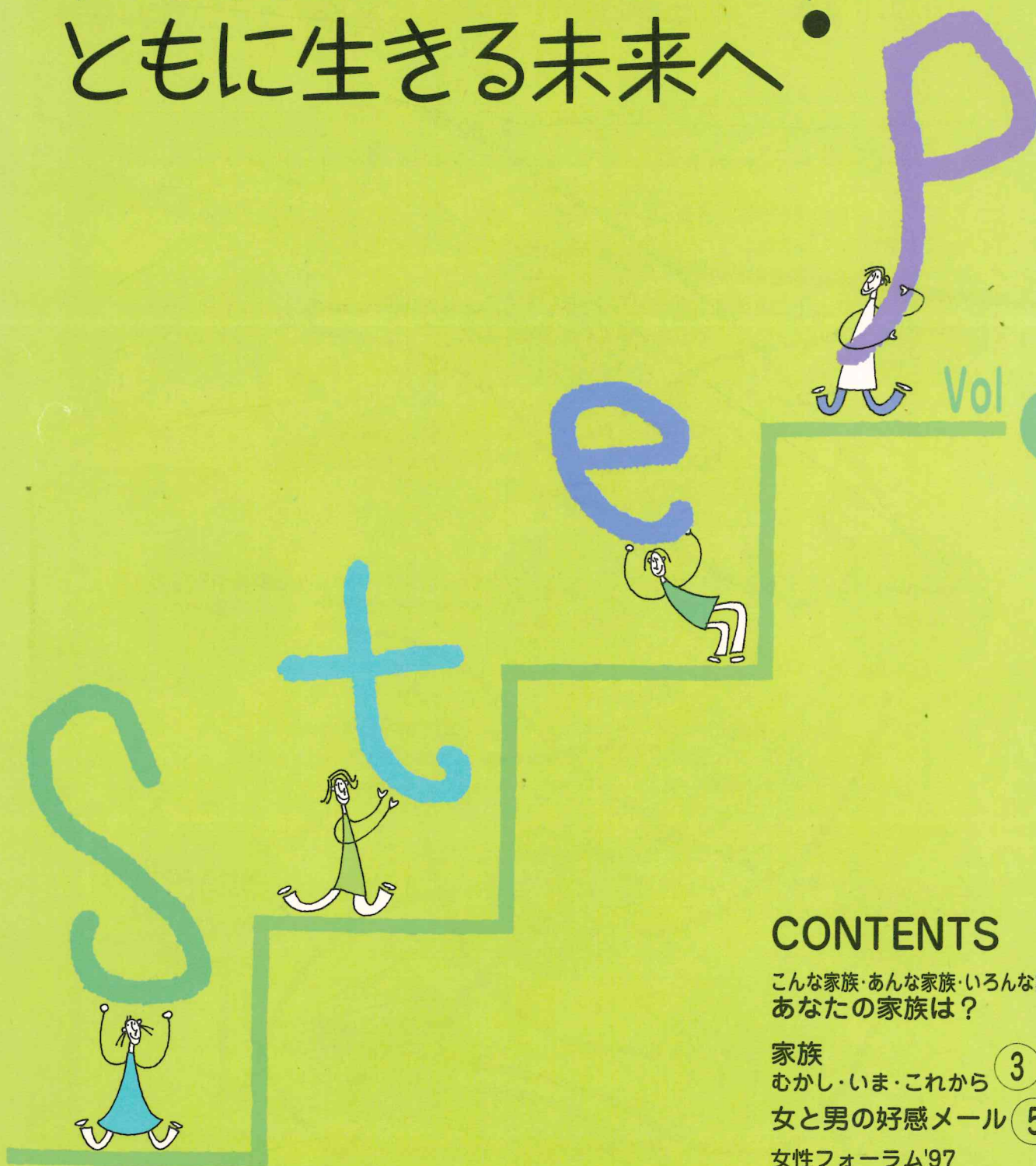


女と男が ともに生きる未来へ



Vol

1

CONTENTS

こんな家族・あんな家族・いろんな家族
あなたの家族は？

1

家族

むかし・いま・これから

3

女と男の好感メール

5

女性フォーラム'97

女と男のステキな関係

6

泉南市

あなたの家族は？

かっちり家族



伝統死守型家族

伝統的な「男は仕事・女は家庭」の性別役割分業を守ろうとしている家族です。この型に行きついた人は、家族とは大黒柱の父がいて、家にはいつも優しい母がいて、家の中はキレイにととのえられ、温かい美味しい料理が用意されていて当然と思っています。そのうえ、たとえ3世代同居であっても家族間のもめごと不起きず、子どもたちは明るく素直で、できもよく、つねに家族は温かい団らんと明るい笑い声に満ち溢れていることを望んでいるのかもしれない。

しかし、現実はどうでしょう。実際にはこんな“絵に描いたような家族”があるのでしょうか。理想を求めるあまり、家族の中の誰かが我慢をしたり、無理をしているのを見落としているかも・・・？

ゆらゆら家族



共依存型家族

主婦の約半分はフルタイムやパートタイムで仕事をしている兼業主婦です。子どもの教育費はかさみ、家のローンは家計を圧迫していますが、夫の給料も一時期のように順調な昇給は望めない現在、夫が経済的な負担を一手に引き受け、専業主婦が家をかっちり守るという時代は遠のきつつあります。

一方、子どもたちも、いじめにあたり、受験競争になじめないなど、ストレスがたまりつつあるのが実情です。きびしい状況に押しつぶされて、不登校や目的が持てずブラブラしていたり、家に引きこもるなど、行き場を失った子どもたちを抱える家族もきっと多いことでしょう。親も子も共に依存しあいながら、いま、家族はゆらゆらゆれています。ここに行きついた人は、おそらくこれらの矛盾に気がついて、新しい家族の形を模索しはじめているのではないのでしょうか。

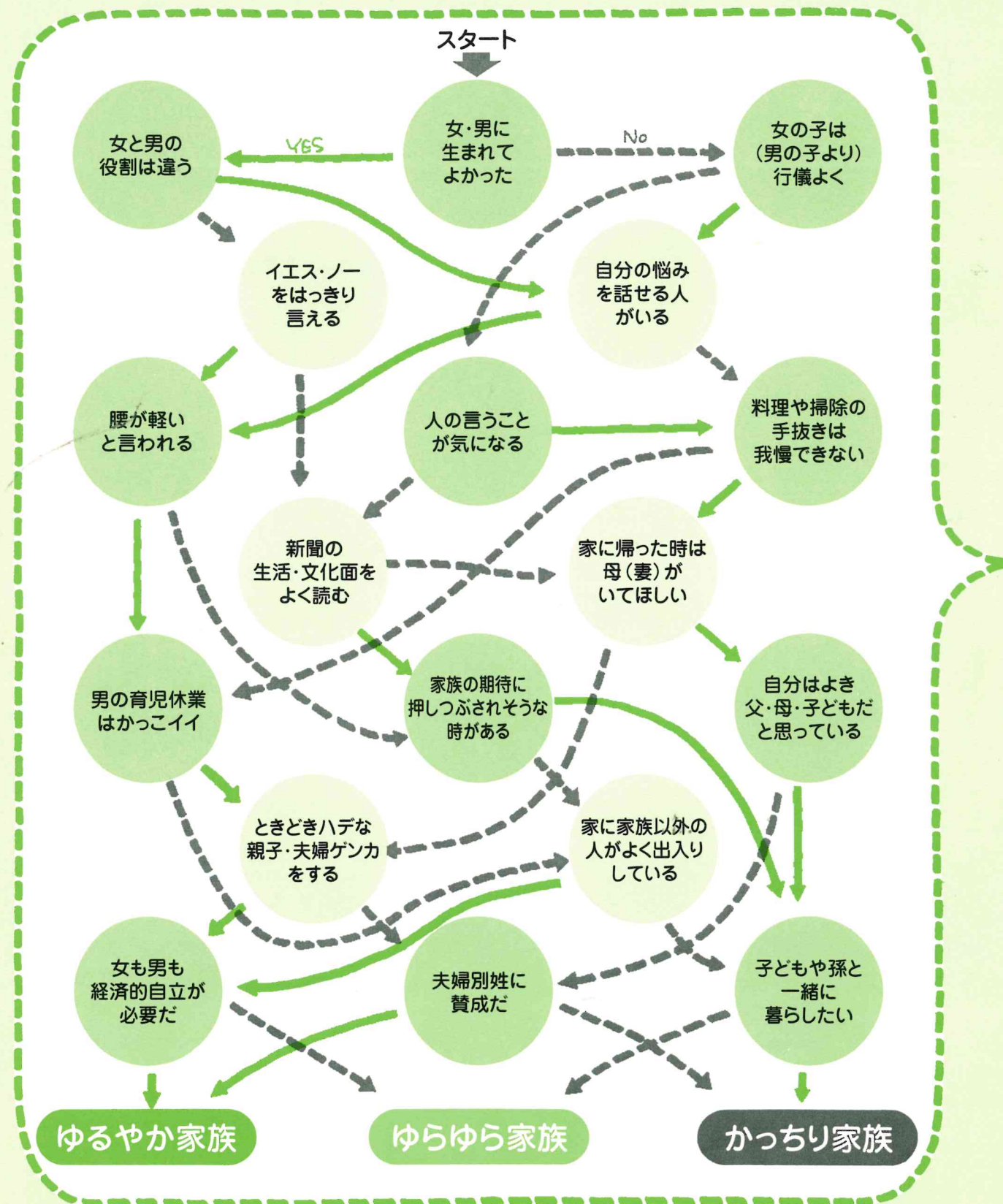
ゆるやか家族

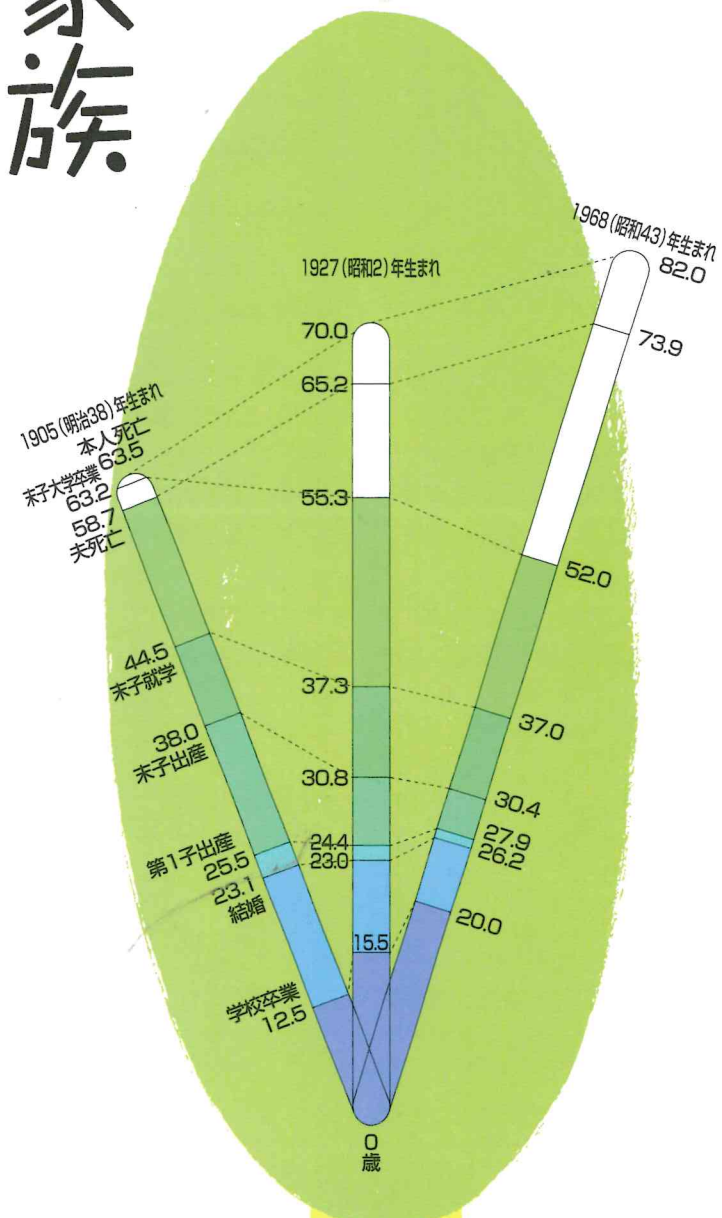


役割解体型家族

性別役割分業のうえにのった“理想の家族像”は、実は希望と幻想にすぎないのではありませんか。家族の理想の形にこだわることなく、時には親子や夫婦のケンカがあたりして揺れることもあってこそ家族であると覚悟を決めてください。そして、多少のもめごとや、さまざまな問題が生じて、それを覆い隠さず、必要とあれば他人の助けも求める外に向けて開かれた家族を考えてみてはどうでしょうか。

21世紀に向かって時代は確実に変わっています。夫婦別姓、共働き、男の育児休業も当然のようになるかもしれません。一人ひとりが従来の性役割（男は仕事・女は家庭）や、性規範（男らしく・女らしく）にとらわれることなく、もっといろいろな形態の新しい緩やかな縁を結ぶ家族へ、あなたもトライしてみてもいいのでは？





女性のライフサイクル

むかし
いま
これから



みくだけはん 三行半

り系ん状

其方事不縁に付我等
此度離縁致候然る上は
何方え縁付候共差構
無之仍而如件

夫 六兵衛事

長 次 郎

おきんとの

『現代家族の法律読本・岩波書店』より

むかし

家父長型・直系大家族の時代

明治22(1889)年から昭和21(1946)年まで続いていた旧憲法の時代は、「家」ということが重視された時代です。結婚は、当人たちの自由な意思よりも、「家」と「家」の間でのとり決めが優先しました。「家」というのは、男から男（主として長男）へと、血のつながりによって続いていく集団を意味していますから、嫁入りした女性は、あと継ぎの男の子を生むことが最大の務めとなります。子を生まない嫁は「嫁して3年、子なきは去る」ということで、離婚されてもやむを得なかったのです。

また、この時代は戸主を頂点に夫婦、親子、きょうだいの間にも主と従の関係が当然のように存在していたのですが、特に女性は、「生まれては父に従い、結婚したら夫に従い、老いては子に従い」という三従の教えを生きながらえを強いられていました。

三二年表

- 1975年 国際婦人年
- 1976年 「国連婦人の十年」スタート
- 1980年 国連・女子差別撤廃条約採択
- 1985年 日本・女子差別撤廃条約批准
- 1986年 日本・男女雇用機会均等法施行
- 1992年 日本・育児休業法施行
- 1995年 国連・第4回世界女性会議（北京）
- 1996年 日本・男女共同参画2000年プラン策定



いま

性別役割分担型・核家族の時代

昭和21(1946)年に公布された新憲法の第14条は、あらゆる身分的差別や性差別を禁止しています。したがって夫婦、親子、きょうだい間の不平等も、許されなくなりました。家庭のなかだけでなく、社会生活においても選挙権や進学、結婚などでの男女平等が保障されたのです。

でも、法律や制度が変わっても人々の意識は急には変わりません。例えば、結婚式やお葬式には必ずといっていいほど「〇〇家」が登場します。これは、結婚が「個人」と「個人」ではなく、「家」同士の結びつきであった時代の意識が残っているためと言えるでしょう。

また、この時代の初期には、産業が都市に集中し、職を求めて農村から都会へと多くの人々が移動しました。家族はそれまでの農業中心の大家族から、「夫婦と子ども」だけの核家族へ、さらに「夫は仕事・妻は家事・育児」という性別役割分担型家族へと変化していったのです。

三二解説

北京会議と行動綱領：1995年「平等、開発、平和への行動」をテーマに中国で第4回世界女性会議が開催され、今後の女性の地位向上にむけた国際的な指針となる「行動綱領」が採択されました。これには女性が自ら能力を高め、社会のあらゆる分野で力を持った存在となること（エンパワーメント）や女性の人権など、今後取り組むべき課題が数多く盛り込まれています。これを受けて日本も'96年12月に新たな国内行動計画「男女共同参画2000年プラン」を策定しました。



これから

男女共同参画型・自立家族の時代

高齢化が進むにつれて、核家族がさらに小さくなり、核分裂家族という言い方さえ生まれています。家族のメンバーが就学や就職、転勤などでバラバラになるだけでなく、核家族の子どもたちが成人した後、高齢の夫婦、一人暮らしのお年寄といった世帯が増えてきています。

一方、血縁だけでなりたってきた家族に変化が出てきています。国際養子縁組を行っている人や、友だち同志と一緒に暮らしている人たちが、単親家族、高齢単身家庭など、家族の形態に広がりが見られるようになってきました。これまでのように、血のつながりに支えられた家族だけを考えるのではなく、それ以外の家族のあり方も視野にいった家族観を育んでいく必要があるでしょう。

また、「夫は仕事・妻は家事・育児」という性別役割分担では支えきれない家族の形が多くなってきていることも否めません。これからは、女、男という性の違いを超えて、それぞれが「個」として自立することが今まで以上に必要になってくる時代です。

女と男の好感メール



このメールが届くのかと思いますと、子どもみたいにドキドキしてます。今日は電子メールの記念すべき誕生日です。T子

「女はメカに弱い」なんてウソです。女、50歳にして運転免許を取りに行こうか、インターネット・スクールに通おうか迷った末にインターネットに挑戦したT子さん。メールアドレスは野山歩きの趣味をもつ彼女の好きな花「ササユリ」です。わずかに20歳そこそこで天国に逝ってしまった息子さんに届けとばかりにオカリナを山頂で吹くのだ、と語ってくれたT子さんに、その日のうちに返信メールを送りました。

祝インターネット開設！祝初メール着信！本当に実現されましたね。おめでとうございます。あなたの喜びが私にまでピンピン伝わってくる初メールです。何事もチャレンジ精神が大切であることを身をもって体験されたあなたにエールを送ります。乾杯！！！！

また、最近こんなうれしいメールが男性から届きました。

「消費生活アドバイザー」（通産省認定）、「消費生活専門相談員」（国民生活センター）、両方、合格通知がきました。春から忙しくなりそうです。「変わる男」をめざした成果と、今喜びにひたっています。

そこで、またさっそく返信メールを書きました。

Oさん、凄い！！！！おめでとうございます。私も「変わる男」をめざして輝かしい成果を得た友人を持てた喜びにひたっています。あなたの笑顔に早くお会いしたい気持ちです。ワーキングウーマン3人組の楽しい日帰りツアーで地ビールを買ってきましたので、次回のサロンで祝杯をあげましょう。では、再見！

Oさんは私が講師をしたある大学の公開講座で出会った男性で「私は夕食の支度がありますので、みなさん、お先に失礼します」と、仲間たちとの楽しいお喋りもそこそこに、まだ現役で勤めている妻の内助の功に徹しています。主夫業の合間に私の講座を受講し、定年後を「生産者の立場から今度は消費者の立場」で何かできないものかと考えた結果、ひそかに消費生活アドバイザーの勉強をやり始めたのです。おかげで彼は大根の値段がわかる男として、女の井戸端会議の入場券を女たちから何枚もプレゼントされています。「Oさんはえろう女のひとにモテはりますなあ」と男たちから嫌みを言われるのも有名な話。Oさんの顔は以前にも増していい顔になっていくのです。

木下 明美

ジャーナリスト

プロフィール

京阪神間の自治体の女性政策、教育、観光などの専門委員、審議会委員などをつとめる。

新聞、雑誌への寄稿、講演などで活躍。

著書●「女の言葉が男を変える」講談社 ●「自分探しの本棚」松香堂書店

●「I LOVE 深窓の夫 私の両性自立論」日本評論社

共著●「これからの男の自立」創元社 他多数

女性フォーラム'97

女と男のステキな関係

遙 洋子 VS ジェフ・バーグラント

泉南市では3月1日（土）、テレビ・ラジオ等でご活躍中の遙洋子さんとジェフ・バーグラントさんに「女と男のステキな関係」についてお話をいただきました。

スカッとするほど女性の気持ちを代弁して下さる遙さんと、流暢な京都弁で男の本音について語られるジェフさんのお話をここで少しレポートしたいと思います。

略歴

NHK「スタジオパーク」からこころに「読売TV」トトラタイガース「朝日放送「ナイターナイト」関西TV「たかじん」等に出演。女性の生き方・あり方についての考えには信念がある。

遙さんのファンに言わせれば、二人とも自分の意見を持っていて、それを相手にぶつけても決して怒らない。とても楽しかった。（40歳代女性）

ジェフさんは普段から家事をこなすステキな男性。パートナーさんが苦手な掃除や片付けは、ジェフさんが好きなのでバランスがとれているんだとか。ジェフさん曰く、「理想の女性は個性的な人。私は一緒にいて楽しく刺激的な女性をパートナーにしたから、いつまでも恋愛気分です」というご意見を聞き、日本男性も『ひかえめ』な女性より『自分らしさ』を大切にしたい女性の良さを認めてほしいなあと思いました。

一方、意外や意外、「いいお嫁さんになるために、以前お茶にお華、日舞を習った」と言われる遙さん。当時は『お嫁さんになること』が女性の幸せだと思っていましたが、や



夫と一緒に生きてきたナニー。明日から生き生きライフの元気がおこるよ。（40歳代女性）

りがいい仕事に出会い、周囲のいろんな女性を見るうちに「働く女にとって結婚って割が合わへん。家事もできる、仕事もできるし経済力もある自立した女性が、『結婚』という制度に縛られて自由を失ってしまうのはもったいない」と考えるようになったそうです。そんな二人の結論は、「人間は常に学んでいく動物。男女ともに相手の成長を妨げてはならない」ということ。『女と男のステキな関係』は、お互いを尊重するところから始まるのだというお話は、パートナーとの関係を改めて考える良い機会になったのではないのでしょうか。

略歴

大手前女子学園教授。朝日放送「おはよう朝日です」関西TV「痛快エブリディ」MBS「すばらしき仲間」等に出演。日本が大好きで、柔らかな京都弁でお茶の間の人気を得る。

女性フォーラム'97企画会議



「市民の手で女性フォーラムを創ろう!」という呼びかけに立ち上がってくださったのが、フォーラム企画会議の皆さんです。市民参画型フォーラムは今までにない試みなので、事務局側もハラハラドキドキでしたが、半年間メンバーとともに考え、話し合った結果が一つの形になったことに一同大満足でした。また、オープニングで泉南地域在住の南米出身の皆さんに民族舞踊を披露していただいたり、市民の方のご協力を得て併設した消費者問題・環境問題に関する展示も大好評だったりと、たいへん有意義なフォーラムだったと思います。これからも、市民が主役のフォーラム・イベント等を考えておりますので、ぜひご参加下さい！

INFORMATION

平成9年5月から女性相談が始まります

なんだか最近モヤモヤしている、周囲との人間関係がうまくいかない・・・等々、気になる悩みはありませんか。女性が日常生活の中で直面する問題は仕事や家庭・子育てのことなど様々ですが、親しい相談相手がいなかったり、人に打ち明けるのが苦手なあなたのために、女性カウンセラーと一緒に考えるお手伝いをいたします。

「結婚と同時に家庭に入ったけれど、何か物足りない感じがするなあ」「離婚したいけれど子どものことを考えると・・・」「職場での人付き合いがうまくいかない」、そんなあなたの肩の力を抜くためにも、一人で悩まずにご相談ください。

相談日時●毎月第2水曜日／午後6時～9時
第4金曜日／午後1時～4時
(相談時間は一人1時間程度)

相談場所●泉南市立樽井公民館 3階・控室
(秘密厳守・相談料は無料です)

申込み方法●電話予約してください

予約・お問い合わせ先●泉南市役所人権啓発室
☎ 83-0001

編集後記

女性と男性がお互いを尊重し、ともにのびのびと暮らせる社会づくりのための情報提供として、女性情報誌を作成しました。ご意見、ご感想などございましたら、アドバイス下さい。

BOOK紹介

シンデレラ王子の物語



『シンデレラ王子の物語』
バベット・コール著/上野千鶴子訳
発行：ウイメンズブックストア松茸堂

シンデレラ王子はいつも3人のお兄さんたちにかからわれ、掃除・洗濯をさせられてばかり。ある夜、そんな王子のもとに妖精が現れて・・・。

新鮮な感覚で、従来の“らしさ意識”を一掃してくれる物語です。

女性問題アドバイザー養成講座

編集委員日誌

〇月〇日 アドバイザー講座が修了して1カ月。せっかく10回も勉強したのでそれを形にのこそうということで、おもしろそうだし報告集編集委員をしてみることにした。メンバーは4人。まず最初に手分けしてテーブルの聴き取りをすることになったけど、これがなかなか手ごわいのよね。果たしてちゃんとできるかなあ。

〇月〇日 苦労した甲斐があって、やっと聞き取り完成！ 子どもとも遊びながらだから疲れたけれど、なんだか達成感があるなあ。でも今度は文章をまとめないといけないし、まだまだ気を抜いてはいられない。あと1歩、がんばらないとね。

〇月〇日 だいぶ仕上げに近づいてきた今日この頃。委員同士でも身の回りの女性問題について話合ったりするし、こんな会話ができる仲間ができただけでも講座を受けてよかったと思う。もう少しで報告集もでき上がるけれど、5月から始まる講座にも参加して、もっともっと友だちを増やそうっと！

編集・発行／泉南市人権啓発室 ☎590-05 泉南市樽井1丁目1番1号 ☎0724(83)0001

制作／(株)アトリエF ●デザイン・イラスト／森田興子

タイトル

タイトルの「Step」は、男女共同参画社会を目指して一歩ずつ前進しようという意味を表しています